医療福祉連携室たより

Vol.２７
2019.2

新年のご挨拶

院長　北村　道彦

平成最後の新年を迎えました。本年度12月までを振返ります。まず第１は、5月に正式にスタートしたレスパイト入院が定着しつつあることです。本年度は12月までに11名の利用があり、延べの入院期間は178日でした。ご理解をいただき、協力してくださっている介護施設やケアマネージャーさんに感謝いたします。次は、8月に日本健康・栄養システム学会の臨床栄養師研修施設認定を受けたことです。この認定で、当院内でNST（栄養サポートチーム）の研修ができるようになりました。高齢の町では摂食嚥下を含めた栄養管理は最重要課題ですのでNSTには更に力を入れていきます。第３にはチーム医療の充実が挙げられます。10月から多職種参加総回診に薬剤師が参加しました。現在、総回診のメンバーは医師、歯科医師、薬剤師、看護師（病棟、外来）、医療クラーク、栄養士、リハビリ技士、社会福祉士と８職種で、新年からは検査技師も参加しました。情報共有のみならず各職種からの提案が積極的になされることを期待しています。

平成31年1月16日　県立中部病院研修医と北村院長（中央）

また、エンドロールカンファと呼称しているいわゆるデスカンファも定着しました。終末期にはご本人やご家族の思いに寄添い、最後の時間をその方らしい意義あるものにしたいと切に考えています。最後は、多田量子看護師によるフットケア外来が、8月から開始されたことです。糖尿病をターゲットに開始していますが、爪白癬症、鶏眼など予想した以上にニーズが高く賑わっております。

このように本年も、患者さんファーストに多方面にわたって積極的に取り組んでいきます。

入院患者数は目標の７割に近づいています。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

フットケア外来はいかがですか

看護師　多田　量子

当院のフットケア外来についてお話しさせていただきます。私は昨年、フットヘルパー、フットケアマネージャーの資格を取得しました。資格取得を志した理由は、高齢者の多いこの地域で、自分の足の手入れが出来ていない患者さんがあまりにも多く、厚くなってしまった爪を何とか綺麗にしてあげたい、と思ったのがきっかけです。手入れが出来ない足を放っておくと、歩行に支障を来たし、最悪、要介護度がアップし、寝たきりにも繋がります。患者さんの多くは厚くなった爪白癬ですが、酷い胼胝（タコ）や、なかなか治らない鶏眼（ウオノメ）の相談に来院される方もいます。実際に、フットケアに関わる事が出来るのは月に2～3名程ですが、フットケア後に「綺麗になった！」「痛くなくなった！」と喜ばれると、私もこの上ない喜びに包まれてしまいます。フットケアは時間がかかりますが、その時間は患者さんと1対1でいられる大切な時間だと思っています。何気ない世間話から、足にまつわるアドバイスであったり、お悩み相談だったり、普段の業務とはまた違った、特別な空間でもあります。フットケアに関しては有資格者が一人であり、現在一人で行っている事で時間等に限りがありますが、希望には出来るだけ対応していきたいと思いますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

今後は、フットケア指導士の資格取得を目指し、地域全体にフットケアを普及させ、少しでも長く自分の足で歩くことが出来るような地域づくりに関わって行ければ、と思います。

お気軽に外来にお問い合わせ下さい。

平成30年度岩手県立中部病院 地域医療研修成果報告会を開催

内科医長　伊藤　潤

毎年恒例となっておりますが、１月１６日に中部病院の２年次研修医が当院で、さわうち病院での地域医療実習の振り返りをする発表会がありました。中部病院の伊藤院長先生や研修担当先生方、さわうち病院で地域実習を行い今は中部病院で働いているOBの先生や1年次研修医の方など大勢の方がいらっしゃいました。２年次研修医の皆さんには例年にも増して立派な発表をしていただきました。

医療が進歩する程に専門性が高くなり、多忙もあって、どうしても自分の専門領域だけに眼がいきがちになってしまいます。病気などで日常から外れてしまった人をまた日常へ帰すということ、その人の周囲も含めて全体を評価する、当たり前のことですがややもすると忘れがちになってしまうことを当院の実習で体験してもらいました。

平成31年1月16日　研修結果報告会終了後、細井町長(中央）を囲んで記念写真。

発表会に来た１年次研修医より頼もしく見える２年次研修医の皆さんは今後、それぞれの専門領域を深める研修に移ります。病気を診ること、人を見ることができるような、少しでも当院での実習が何かの役に立つことがあったらと思いながら、また、次の春を迎えます。

編集後記

暦の上では、春だというのに、西和賀町はまだすっぽりと雪におおわれていますが、やがて来る春の陽ざしを待ち遠しく感じているこの頃です。

さて、さわうち病院では、緩和ケアを研修した看護師を中心に月１回、エンドロールカンファレンスを行っています。癌患者さんの入院から退院、そして看取りまで関わったスタッフ全員で感じた事を話し合います。緩和ケアとして痛みや身体的問題・心理的社会問題を情報共有し、患者さんの望むケアが提供できたのか？スタッフで振り返る場でありとても大切な時間です。振り返りは患者さんの訴えや思いを次に生かす事ができます。毎回、課題は残りますが確実にスタッフの成長につながっている様に感じます。

これからも、患者・家族に寄り添った看護・介護の提供が出来るように振り返りを通じて学んで行きたいと思います。

主任看護師　佐々木　昇子

町立西和賀さわうち病院　医療福祉連携室担当　髙橋　豊宏
〒029－5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-3-12
TEL:0197-85-3131　FAX:0197-85-3133(直通)
toyohiro1410@town.nishiwaga.lg.jp